

令和元年度 第9回 すまいるはあとセミナー



令和元年 12月3日(火) 10:00~12:00

『統合失調症の理解と対応の仕方』

医療法人三永会 西条心療クリニック

名誉医院長 山崎 正数先生



統合失調症とは

- ・若年発症(思春期、30才まで)→最大の障壁(子どもが減ると患者が減る) 生涯発症危険率1000人に約7人
- ・男=女
- ・人生の進路における変化が発症契機
- ・慢性に経過することが多く、難病といえる
- ・後遺症の認知機能障害で大きな生活障害
- ・「人格の病」ともいわれる

・以前は精神分裂病



次回のご案内

令和2年1月14日(火)

10:00~12:00

『精神保健福祉の

歴史について』

講師：地域活動支援センターときわ

精神保健福祉士 中田佐千枝

お問合せ先

地域活動支援センターときわ

Tel.082-420-9205

担当(中田)

12月には、西条心療クリニックの名誉医院長 山崎 正数先生を講師にお迎えし「統合失調症の理解と対応の仕方」をテーマにすまいるはあとセミナーを開催しました。

統合失調症は、約130人に1人が発症する可能性のある疾患だそうです。思春期から30歳くらいまでに発症することが多く、若年発症であることが最大の障壁になると説明して下さいました。就労や進学など思春期に様々な経験がうまく出来ないことでその後の生活に支障をきたしてしまうそうです。かつては、幻覚などの症状をとにかく薬で抑えることが治療の中心だったそうですが、近年は

「それだけでは良くならない」と考えられるようになってきたそうです。症状があっても希望を持ったり、社会の中で役割を果たしたり、自らが満足した状態でいられるようにすることが重要だと講義の中でお話していただきました。自分自身が満足した状態で生活できるということは病気や障がいの有無にかかわらず、誰にとっても大切なことのように思います。講義の後の茶話会では、住み慣れた地域の中で誰もが自分らしい暮らしを実現するために必要な事は何なのか、参加者の皆さんと一緒に意見交換を行いました。